

特集／「カフェ蔵」流 家庭料理ランチ

町政スポット／平成22年度朝日町自治功労者等表彰式、一本松公園に

常設トイレを整備、第30回朝日町りんご品評会 ほか

まちの話題／第31回朝日町産業まつり、あさひまち図書館まつり2010、

第31回女性まつり、デキる男のマタニティママサポート講座 ほか

朝霧立つ 晩秋の最上川

(11月22日／川通地内)

☒ ホームページに写真

広報

あさひまち

2010年12月号

No. 649

特 集

「カフェ蔵」流 家庭料理ランチ

地元の食材を利用した ランチが人気

「交流・観光」の拠点として、町が宮宿商店街内に今年整備した「蔵のひろば」。町総合観光案内所「あさひ旅のココロ館」及び、「カフェ蔵」が主な施設で、8月21日のオープン以来、町内外から多数のお客様を迎えています。

このうち今回紹介するのが、「カフェ蔵」で提供されている、和・洋2種類のランチ。いずれも地元の食材を取り入れた家庭料理風の味が特

徴で、料理教室の講師等で実績のある柴田泰子さん（四ノ沢）と17人のスタッフが、運営組織の「みちくさの会」を作り、腕をふるっています。

この店のランチは「日替わり」ならぬ「月替わり」。すでにこれまで



好評だった9月の「和」ランチ
アケビが評判を呼んだ

何種類かのメニューが提供されてきましたが、その中で、特に好評だった食材がアケビ。9月は、これを目当てに訪れた方で連日行列ができ、中には片道1時間以上かけて3回も訪れた方もいたそうです。

昔ながらの家庭の味が 「ごちそう」に

朝日連峰をはじめとした山々、そして最上川、朝日川など自然に囲まれた朝日町は、アケビ以外にも様々な食材が手に入る、言わば「食材の

宝庫」です。これまで長い年月の中で、これらを利用した様々な郷土料理が生まれ、各地域、そして家庭で受け継がれてきました。

そうした料理は、町民にとってはありふれたものかもしれませんが。しかし、都市部で暮らす方々にとっては全く別物。山間部にお住まいの方々にとって海産物のごちそうであるように、都市部にお住まいの方々にとっては、昔ながらの家庭の味がごちそうに値するのです。

懐かしく、ホッとできる 味を大事に…

「カフェ蔵」のPRポイントは、こうした家庭の味をランチメニューで気軽に楽しめること。柴田代表は「お客様は主に50代から60代の方が多いようです。山形市や天童市など、およそ1時間圏内からおいでいただく方が多く、『懐かしい味』といった声が多く寄せられます。こう

した料理は手間がかかるのも事実ですが、それを理解してくださる方も多く、励みになります。これから『ホッとできる味』を大事に、手作りにこだわっていききたいと思っています」と話してくれました。

12月のランチメニューのテーマは「お正月（和）」と「クリスマス（洋）」。

12月のランチメニュー

和

テーマ「お正月料理」



のし鶏、黒豆、りんごのおろし和え、昆布巻き、ブリ大根、すいとん、ご飯

洋

テーマ「クリスマス料理」



チキンロースト、白菜のクリーム煮、レタスとりんごのサラダ、イカのマリネ、すいとん、ご飯

「カフェ蔵」 ☎ 990-1442 朝日町大字宮宿 1175-2

■営業時間：午前10時～午後6時 ■定休日：毎週水曜日
■Tel/Fax：0237-67-2377 ■メニュー：洋風ランチ（750円）、和風ランチ（700円）、オムライス（650円）、米粉のグラタン（650円）、ピザトースト（650円）、ブレンドコーヒー（300円）、ホットケーキセット（500円）、和スイーツセット（250円）、パフェ（500円）、ダチョウ御膳（1500円※要予約）ほか
※メニュー、値段は季節によって変わる場合があります。
※12月29日（木）～1月5日（木）まで年末年始休業です。ご了承ください。



お店は「みちくさの会（柴田泰子代表）」が運営

「道草するような気持ちで、気軽に立ち寄れるようなお店に…」店の名前の由来についてこう明かす柴田代表。

メンバーのほとんどが商店街（本町、大町地区）にお住まいの女性。17人のスタッフが交代制でお店に入っています。「商店街で営業させていただくにあたり、この地域の方々にサポートしていただけるのは本当に心強いですね」と続けました。



平成22年度朝日町自治功労者等表彰式



■自治功労者表彰

渡辺久喜さん（西町）
平成10年から12年間、人権擁護委員として総合相談や人権啓発活動に尽力。

小野田鶴子さん（大谷七）
平成11年から9年間、人権擁護委員として総合相談や人権啓発活動に尽力。

登坂高典さん（八ツ沼）
平成10年から12年間、町教育委員として教育行政に貢献。委員長職務代理の要職も歴任。

遠藤清実さん（栗木沢）
平成13年から8年間、町教育委員として教育行政に貢献。

町の振興発展に貢献された方々を表彰する自治功労者等表彰式が11月26日創遊館で開催され、10個人、2団体に対し、町長より表彰状（感謝状）が贈呈されました。

今野優さん（本町）

昭和60年から24年間、町文化財保護委員として文化財行政に尽力。平成6年から15年間は委員長職も歴任。

■善行褒章者表彰

大谷五区 峯友会

（代表 白田健志さん）
昭和52年の設立以来33年間、秋葉山周辺の刈り払い作業などを行い、地域環境の向上に貢献。

大船木元気クラブ

（代表 長岡文子さん）
地区内に高齢者が気軽に集まり話し合える場を作り、地域保健福祉の向上に貢献。

長岡一美さん（前田沢）

お年寄りの方々と一緒に地区内に交通安全を啓発するかわしを設置。地域福祉の向上と交通安全の推進、集落内の美化活動に貢献。

「私の活動は、朝日町という風土が生んだもの」

阿部宗一郎さんに「地域文化功労者表彰」

芸術文化の振興や文化財の保護など、地域文化の振興・発展に功績のあった個人及び団体を文部科学大臣が表彰する「地域文化功労者表彰」に、このほど阿部宗一郎さん（常盤）が選ばれました。

県内町村で初となる「朝日町芸術文化協議会」を設立。その後22年間にわたり同会長を務めたほか、延べ25年間にわたり町文化財保護委員を務めるなど、町文化の振興・発展に尽力。また、詩、俳句等で表現活動を展開し、平成17年には山形

「芸術・文化活動には必要不可欠な要素が3つあるんです」と話す阿部さん。「それは、『人間性』『風土性』『時代性』です。私の活動は、朝日町という風土が生んだものであり、この町にずっと住み続けたからこそ得られた賞と言えます。これまでお世話になった方々に感謝したい」と続けました。

民生児童委員協議会臨時総会

37人に委嘱状を交付



民生児童委員協議会臨時総会が12月3日開催されました。

今年は3年に一回の一斉改選の年。新任11人を含めた37人に委嘱状が交付されるとともに、このほど退任された方々に対し、国・県などから感謝状が贈呈されました。



自身の活動の原点、宮沢賢治の作品について語る阿部宗一郎さん（隣は知子夫人）

年には山形県の文化関係表彰で最高峰とも言える「斎藤茂吉文化賞」を受賞しました。

「芸術・文化活動には必要不可欠な要素が3つあるんです」と話す阿部さん。「それは、『人間性』『風土性』『時代性』です。私の活動は、朝日町という風土が生んだものであり、この町にずっと住み続けたからこそ得られた賞と言えます。これまでお世話になった方々に感謝したい」と続けました。

▼今回、委嘱状の交付を受けた方々です。

※（ ）内は担当地区

【中部地区】五十嵐昭子（本町）、長岡俊子（西町）、小関恵美子（栄町）、柴田きよ子（助ノ巻・雪谷）、阿部くに子（大町）、佐藤久美子（大町・緑町）、渡邊滝子（元町・西原）、阿部茂子（前田沢・新宿）、阿部直子（四ノ沢）、後藤治三郎（小原・宿）、菅井博（沼向・平・大隅）、渡邊千鶴子（古楨・送橋）、岡崎関子（下芦沢）、高橋道子（水本）、藤沢盛治（杉山・松原）、佐竹勝男（宇津野・大滝）【西部地区】長岡陽子（常盤）、阿部京子（夏草・長沼）、海野康一（西船渡）、登坂ひかる（八ツ沼・高田）、海野節子（能中）、長岡富枝（太郎一・太郎二）、岸トキ子（太郎三・石須部）、阿部みねよ（立木・白倉）、布施榮五郎（松程）、鈴木利和（大船木・今平）【北部地区】白田みや子（大谷一・大谷二）、志藤恵美子（大谷三・大谷四）、渡邊勲（大谷五）、保利勲（大谷六）、堀勇六（大谷七・中沢）、庄田美樹子（真中・舟渡）、志藤寛治（栗木沢・川通）、澁谷一俊（大暮山）、小林昇（大沼）【主任児童委員】岡崎優子、小林秀子（敬称略）

棚田百選「樺平の棚田」を一望 一本松公園に常設トイレ

環境整備で来訪者のさらなる増加を図る

日本の棚田百選「樺平の棚田」を一望できる能中地内の一本松公園に、このほど常設トイレが整備され、12月4日の「棚田収穫感謝祭」で区民の方々に初披露されました。



一本松公園駐車場の一角にこのほど整備されたトイレ休憩所を兼ねた物産品販売スペースも確保されている



建物は同公園の駐車場に設置。男性用・女性用及び、多目的トイレが備えられているほか、休憩所を兼ねた来訪者向けの物産品販売スペースも確保されています。建築面積は34・97㎡で、建設費は約870万円。能中区は昨年12月、地域の身近な資源を生かして地域おこしにつなげようと、同公園内への農産物販売所建設を町に要望。その後、建設後の維持管理や負担区分などについて、町との間で話がまとまったことから、今年8月建設に着手。約3カ月で完成に至りました。

感謝祭には、能中区民のほか、町内外の「棚田保全隊員」など約70人が参加。全員でつきたての餅を味わい収穫の喜びに浸るとともに、新たな施設を利用した地域づくり、交流観光の推進などの話題で盛り上がりしました。

■ホームページに写真

米と粟を宮中に献上

新嘗祭献穀報告会

五穀豊穣に感謝する宮中行事「新嘗祭（にいなめさいけんこく）」（11月23日開催）のため、佐竹光喜さん（松程）、と鈴木好一さん（八ッ沼）により大切に育てられた米（つや姫）と粟（虎の尾）が10月25日天皇陛下のもとに無事「献穀」されたのを受け、その報告会が11月27日、農業団地センターで開催されました。



佐竹さんと夫妻(左)と鈴木さんと夫妻(右)

献穀とは、明治25年から続く伝統行事で「新嘗祭」に供えるための農作物を各都道府県の農家が献上するもの。山形県では、市町村が持ち回りで米と粟を毎年献穀しており、朝日町は43年ぶりとなります。

この日は県・町・JA等の関係者など80人が出席。春先の低温、夏場の高温など難しい気象条件下での栽培や、米・粟を一粒一粒選別したこと、さらには宮中での御会釈式など、献穀まで約半年間の歩みが報告されると、会場から労をねぎらう盛大な拍手が送られていました。

第30回朝日町りんご品評会

最高級のりんご75点が出品

30回目を迎える町の特産品「ふじ」りんごの品評会が11月20日と21日の両日、町産業まつりに合わせて町民体育館で開催され、町内のりんご農家が育てた最高級のりんご75点が出品されました。



長岡正三西村山農業技術普及課長ら5人による厳正な審査を経て各賞が決定。5万円の値が付けられた最優秀賞をはじめ、75点すべてが産業まつりでにぎわう会場に並べられ、即売されました。

なお、本品評会表彰式の席上、シナノスイート統一共選・販売10周年記念事業として10月に行われた「朝日町シナノスイート品評会」の表彰式も行われています。

【第30回町りんご品評会】

▼最優秀賞

菅井信太郎（大隅）

▼優秀賞

村山征一（大谷七）

▼金賞1席

村山茂雄（大谷七）

▼金賞2席

海野清一（八ッ沼）

▼金賞3席

渡邊達美（古楨）

【町シナノスイート品評会】

▼最優秀賞

井澤 寿一（夏草）

▼優秀賞

堀 義三郎（舟渡）

▼金賞1席

菅井 信太郎（大隅）

▼金賞2席

渡邊 達美（古楨）

▼金賞3席

志藤 宜徳（川通）

■ホームページに写真

連載企画 業を創る

なりわい
業

「都市と農山村が互いの生活を支え合う関係」の構築を掲げ、仙台圏との交流を進める「朝日町産業創造推進機構」の取り組みを連載で紹介していきます。



プロジェクトの活動が行われている常盤地内の旧松本邸

常盤地区「一石櫓プロジェクト」

地域の素材を活かして「業を創る（仕事を創る）」には、「座（仲間・組織等）」と「舞台（場所等）」が必要で。

常盤地区には、最上川舟運で栄えた一石櫓村（常盤地区にあった集落名）の風景が今も残っており、現在も最上川の悠久の流れを展望できます。

旧松本則雄邸は、この地に建ち、主亡き後に町に寄贈されました。この素晴らしい家を郷土料理店として活かし、県内はもとより、仙台圏域との交流観光を進めようと、常盤で元気クラブを運営する有志が、「一

石櫓プロジェクト」を結成。ここで提供する料理やメニューづくりの研修を重ねてきました。

12月4日には地域の方を招いて、実習を兼ねたお披露目会を開催。明治の面影が残る座敷、本漆器のお膳で地元食材の料理を召し上がっていただきました。

来春には、郷土料理の店として、農家茶屋「一農舎」の開業を予定。現在、着々と準備を進めているところです。

※「農舎」旧松本邸に残る石碑に刻まれている屋号。故松本氏の俳号でもあった。

【Mission2】海外でPRせよ



試食販売を行う町職員
(11月11日／台湾国内)

【Mission3】宮城・山形両県都でPRせよ



好調な売れ行きだった山形市内のキャンペーン
(11月25日／山形銀行本店前)

【Mission4】将来を見据えPRせよ



小学生にりんごをプレゼントする鈴木町長
(12月2日／千葉県流山市内)

【Mission5】TVCMでPRせよ



特別賞「演出賞」を受賞した
「朝日町 ザ ムービー ～りんご海外輸出編～」

今年は4カ国に36トンを輸出～現地で試食販売～
(11月中旬／台湾・タイ)

町が平成16年度から取り組んでいるりんごの海外輸出事業。今年は台湾、タイ、香港、シンガポールの4カ国に対し、シナノスイート、シナノゴールド、王林、ふじの4種類、合計36トンの出荷が予定されています。
ふじ以外についてはすでに出荷を終え、11月中旬には町職員らが台湾（＝写真）、タイに出向き、それぞれ店頭で4日間、試食販売を実施。実際に味わっていただきながら高品質な朝日町のりんごをPRしました。

完売にうれしい悲鳴 ～りんごキャンペーン～
(11月下旬／仙台市・山形市)

町りんごの主力品種「ふじ」をPRする「りんごキャンペーン」が11月下旬、仙台市と山形市で延べ4日間行われました。山形銀行本店前で行われた山形市会場（＝写真）には、例年以上のお客様が殺到し、あまりの売れ行きに贈答用の5キロ箱が完売。前代未聞の出来事にうれしい悲鳴を上げつつも、昨年比約2割増の売り上げを記録しました。
軒を連ねて販売したワインやハチミツなども売れ行きが好調で、スタッフの顔には思わず笑みがこぼれていました。

都会の子どもたちとのりんご交流
(12月2日／千葉県流山市)

この取り組みは、都会の子ども達に朝日町のりんごを食べていただくことで、幼少期から「朝日町りんご」ファンを増やそうと、町とハレふじ（葉とらずふじ）生産者が協力し、10年前から毎年実施されているもの。5年前からは、かつて千葉県の流山市内で小学校校長を務めていた加藤正さん（夏草）の紹介により、同市内の2校と交流を行っています。
今年は12月2日に、町長、加藤さん、そして生産者を代表して井澤壽一町りんごアドバイザーなどが学校に出向き、子どもたちと交流、PR活動を行いました。

特別賞「演出賞」を受賞 ～ふるさとCM大賞審査会～
(11月30日／山形テルサ)

第11回山形ふるさとCM大賞（YTS 山形テレビ主催）の審査会が11月30日山形テルサで行われ、朝日町作品「朝日町 ザ ムービー ～りんご海外輸出編～」が特別賞（演出賞）を受賞しました。入賞は2年ぶり3回目です。
作品では「りんごの海外輸出」を映画CM風に紹介。りんごに関連する様々なカットをテンポ良く流すとともに、海外の雰囲気 연출 するため英語を取り入れています。今後1年間で90本以上の放映が予定され、輸出を強力にPRします。

指令

朝日町産 りんごを PRせよ

【Mission】Promote the apple from "asahi-machi"

毎年11月の第3日曜日に開催される町産業まつりへの来場者数がここ数年間で急増しています。

一昨年に過去最多の5,000人を記録して以来、昨年は6,000人、今年が9,000人と、まさに「うなぎのぼり」の状況。この理由として、産業まつり実行委員会事務局長の川口幸男町産業振興課長は、「りんごを求めに来るお客様の増加が大きい。これまで各地で地道に展開してきたキャンペーン活動や、輸出事業によるイメージアップ効果が身を結んでいる」と分析しています。

町で生産されるりんごの約5割を占める主力品種「ふじ」の出荷が始まった11月中旬以降、今年も全国、海外で様々なPR活動が展開されました。

【Mission1】首都東京でPRせよ



西村山地域の首長らが東京で合同トップセールス (11月16・17日／大田市場ほか)

西村山管内の各市町長とJAさがえ西村山の組合長による合同のトップセールスが11月16日から17日にかけて東京で行われました。
この取り組みは、豊富な農産物の産地である寒河江・西村山地域を総合的にPRしようと、今年初めて実施されたもの。今回は日本一の青果物取引量を誇る東京大田市場で、りんごとラ・フランスの消費宣伝活動を行ったほか、市場・中卸関係者と懇談。関係者からは「山

形県内でりんごの産地として生き残っていくのは、朝日町を中心とした西村山地方しかない。今後とも頑張っしてほしい」との激励の言葉が投げかけられ、産地として一層の発展を期待していました。
複数の市町村長らが合同でトップセールスを行うことは、全国的に珍しいこと。来年度はこの時期のほか、初夏のサクランボシーズンにも実施することで、産地の意気込みをさらにアピールする予定です。

第 31 回女性まつり (12 月 5 日／創遊館)



美容と健康の維持にも役立つ生涯学習

町中央公民館と連合婦人会が主催する女性文化教室で 1 年間学んできた成果を披露する「女性まつり」が 12 月 5 日創遊館で開催されました。

意欲旺盛な女性の方々の祭典とも言えるこの行事。今年度は 11 講座に総勢 236 人が学習。ステージで、展示で、それぞれの活動の成果を発表しました。

生きがいと仲間づくりに也大き

な役割を果たしている女性文化教室。ある参加者は「最近若い人が少なくなり、平均年齢が年々上がっているように思います。しかし、各種講座に取り組んでいる受講者の姿は皆輝いていて、年齢以上に若々しく見える方ばかりです。趣味や生きがいを持つことは美容と健康にも役立っているんでしょうね」と話していました。

デキる男のマタニティママサポート講座 (12 月 4 日／子育て支援センター)



「デキる男 (=イクメン)」になるための準備

来春パパ&ママになる夫婦を対象にした「デキる男のマタニティママサポート講座」が 12 月 4 日、子育て支援センターで開催されました。

この取り組みは、共働き夫婦の増加などにより、子育てに対する男性の参加が欠かせなくなる中で、父親としての自信と自覚を高めるきっかけにしたいと開催されたもの。8 人が参加し、妊娠体験ジャケットを使った妊婦の疑似体験や、お

むつ替えの練習、そして子育て支援センターの見学などを実施。子育てに積極的な男性を意味する「イクメン」になるための準備を行いました。

会場となった子育て支援センターに入るのは、参加者のほとんどが初めて。「明るくて楽しく遊べそう」「冬でもあったかそう」など、各夫婦で会話が弾み、我が子の誕生を楽しみに待ちわびている様子でした。

利用者が 1 万人を超える 子育て支援センターあさひ (11 月 27 日／創遊館)



町外にお住まいの方も多数利用しています

4 月にオープンした「子育て支援センターあさひ」の利用者が 11 月 27 日で延べ 1 万人に達し、記念のセレモニーが同日行われました。

記念すべき 1 万人目の利用者となったのは、会田光優さん（山形市／3 歳）。この日は、祖母の鈴木明子さん（常盤）に連れられて訪れたもので、町長より記念品とふじりん

ご 5 キロ入り一箱が贈られました。鈴木さんは「8 月に初めて訪れて以来、孫が来るたびに利用しています。孫もたくさんの友だちと遊ぶことができ、ここが大好きなようです。子守りする側としても安心して遊ばせることができ、助かります」と施設に感謝していました。

☞ ホームページに写真

まちの話題

「☞ ホームページに写真」の表記があるものについては、町ホームページの「まちの写真館」コーナーで、多くの写真を紹介しています。ぜひご覧ください。



第 31 回朝日町産業まつり (11 月 20・21 日／町民体育館およびその周辺)



昨年の 1.5 倍、過去最高の 9000 人を迎える

第 31 回「朝日町産業まつり」が、11 月 20 日と 21 日の両日、町民体育館を主会場に開催されました。

会場には「りんご品評会」として、

町内産の最高級りんご 75 点が並んだほか、町内の企業、商店、個人等による物産品コーナー、当町と交流のある気仙沼市本吉町の海産物コー

ナーなども出店。訪れた方は 2 日間で延べ 9,000 人にのぼり、会場以外の産直施設やワイン城などにも大きな波及効果を生みました。

なお、まつりに合わせて行われた優秀技能表彰では次の方々が表彰されました。【敬称略】

▼町表彰／志藤勝（大谷六）…建築板金工として 54 年間業務に精励、伊藤五三雄（能中）…造園工として 40 年間業務に精励 ▼事業振興協議会会長表彰／菊地敏晴（株）ニクニ アサヒ工場／大江町）、阿部哲也（大東建設（株）／助ノ巻）、村山芳美（村山建設（株）／山辺町）、佐藤信明（株）朝日相扶製作所／夏草）、安藤昇（株）アサヒ技研／宇津野）

☞ ホームページに写真

あさひまち図書館まつり 2010 (11 月 27 日～ 12 月 4 日／創遊館)



図書館を身近に感じる取り組みで 10 周年を祝う

町立図書館の 10 周年と国民読書年

にちなんで「あさひまち図書館まつり 2010」が 11 月 27 日から 12 月 4 日にかけて開催されました。

期間中は、本の読み聞かせ講座や童謡・読み聞かせコンサートなど、本に関連する様々な催しを開催。12 月 4 日には「クリスマス子どものつどい」が創遊館で行われ、約 100 人の親子がおはなし会ぶなの実（朝日町）や人形劇団「あ・い」の人形劇、そしてポッキーマサさんの大道芸を楽しみました。

また、図書館内には、町にゆかりある方の本など郷土に関連する本 200 冊を集めた特設コーナーも用意。図書館をより身近に感じる取り組みで、10 周年を祝いました。

☞ ホームページに写真、動画



今 輝いて 「競歩」で国体出場 菅井拓人さん (東海大山形高3年/大町)



皆さんは「競歩」をご存知でしょうか。文字通り「歩く速さ」を競う競技で、1908年から継続してオリンピック種目にも採用されています。起源は諸説あるようですが、発祥はヨーロッパであるといわれています。

現在、その競歩に取り組んでいるのが、菅井拓人さん（大町）。一昨年春、陸上の名門東海大山形高校に入学して以降、その魅力にとり付かれ、競技人生をスタート。この10月には県を代表して千葉県国体にも出場するなど、この2年間、山形県の高校競歩界をリードしてきました。

このほど大学進学も決定し、さらなる飛躍を誓う菅井さんに、競技への想いなどを伺いました。

「競歩をはじめたきっかけは？」
「小さい頃から走るのが好きで、高校でも陸上をがんばろうと東海大山形を選びました。東海大山形は長距離が有名ですが、実は競歩も伝統があり、毎年数人がその道に進んでいます。私も競歩に取り組み先輩を見て興味を持ち、1年生の8月から本格的に始めました」

「ルールや競技の概要を教えてください。」

「主なものは2つあります。一つが、常にどちらかの足が接地していること。もう一つが、接地の瞬間から地面と垂直になるまで、前足の膝を曲げないこと。競技中は審判が常に目を光らせており、違反すると警告が出されます。3回の警告で失格となります。高校生はトラックの場合5000m、ロードの場合10キロが基本。競技人口は少なく、山形県高校総体の出場者は毎年20人くらいです」

「3年間で一番の思い出は？」

「最初で最後の全国大会となった先日の千葉県国体です。私は昨年と今年、県高校総体で優勝していますが、全国高校総体（インターハイ）には出場できませんでした。出場条件である『東北高校総体4位以内』をクリアできなかったからです。そうしたこともあり、国体県予選を勝ち抜き本大会出場が決まった時は本当にうれしかったです。」

「大学進学にあたり、抱負を一言お願いします」
「進学予定の大学には高校と違い競歩の専属コーチがいますので、自分がどれだけレベルアップできるのか楽しみです。毎日の練習を大切に、多くの人々が『競歩』菅井拓人』と連想できるような選手になりたいと思います。」

「競歩は一般的にあまり知られていない競技ですが…」

「そうですね。同じ学校の陸上部でも、長距離や中距離の選手たちと比べ、私たちはあまり目立ちません。また、本心からではないにせよ、友人の中には競歩を馬鹿にする人もいます。」

広報委員リレーエッセー

私的あさひまち生活

町広報委員が仕事や趣味、家庭などを通じて垣間見える朝日町の姿や日常の思いを自由に綴ります

私は、毎日いろんな人と会うような仕事に就いている。そして別れ際は日常的に「ありがとうございました。気を付けていってらっしゃい」と言う。日常的に使っていると機械的に言っているだけなのではないかと思われるかもしれないが、不思議なことに機械的には出てこない。

この仕事に就いたばかりの時、来る人に対して、こんなに身構えてくる人が多いのかと驚いたものだ。しかし意外と身構えている人の方が話し始めると、打ち

あいさつのチカラ

解けるのも早い。そんな時は「気を付けて」と言葉が出てしまう。その言葉を言う、たいていの人は振り返って「ありがとう」と言ってくれる。そうすると自分もうれしくなる。

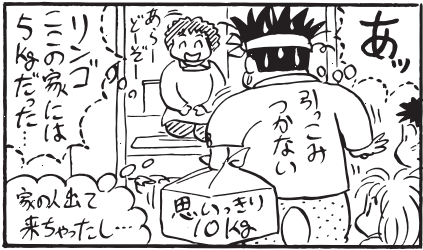
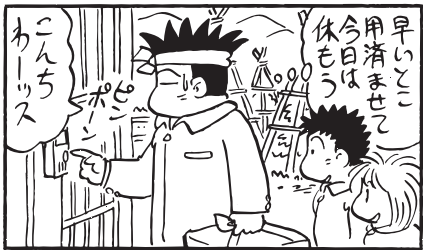
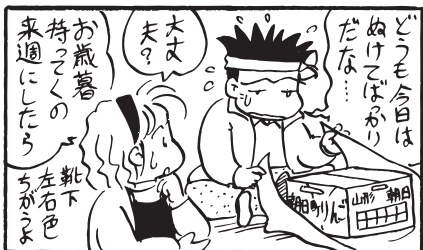
短い時間会っただけで、次に会うことはないかもしれない、会ったとしても忘れていくかもしれない。人と接する日常に少し嫌になる時もあるが、あいさつに救われる時も多い。

これが私の日常です。

(ひらひら)



となりのリンゴさん (231) ホリイ



ー各種大会の成績ー

■第39回町民バレーボール大会（11月7日／町民体育館）※○数字は順位
▼男子の部①フライングB（鈴木直幸監督）②フライングA（長岡司監督）③朝日中3年男子C（浅井周一監督）
▼女子の部①アップルワーズ（堀育監督）②フライング（斎藤さなえ監督）③ちょこばなな（古田豊彦監督）

町立図書館新刊案内

「平田牧場『三元豚』の奇跡」

新田 嘉一 著



「日本一うまい豚肉をつくりたい！」たった2頭から始まり、今や年間20万頭・年商200億円へ。「安全な旨い豚」で日本の食を変えた著者が、平田牧場の半世紀の歩みを綴る。酒田市（旧平田町）生まれ。

「マキリ」 安達 千夏 著



十数年ぶりに故郷山形に戻った騎寅。再会した幼なじみでかつての恋人・竜子は、騎寅の父の妻となっていた。即身伝承の残る山形を舞台に、男女のもつれ合う情念と因縁を、濃密な官能と斬新怪奇な物語で綴るホラー恋愛小説。山形県出身。

■ブックテアマコーナー
特集「クリスマス&お正月」



■平成22年(2010年)
11月1日～11月30日届出



すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
中 沢	五十嵐 蓮	男	安弘・小百合
大 町	阿 部 綺 那	女	亨・有貴
助ノ巻	鈴 木 音々花	女	謙次郎・奈々恵
大 町	成 原 奏太朗	男	誠・恵美
大 町	佐 竹 里 彩	女	大樹・充子



おしあわせに

志 藤 裕 二	逸 見 奈 津
(元 町)	(河北町)
高 取 岳 彦	高 橋 沙 織
(西 町)	(飯豊町)
阿 部 竜 明	森 野 由理香
(松 程)	(村山市)
菅 井 亮	伊 藤 茜
(宿)	(中山町)



やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
太郎一	阿 部 きくの	光 國
常 盤	長 岡 恵美子	百合子
大船木	佐 藤 安 吉	本 人
真 中	遠 藤 アヤ子	信 男
元 町	分 銅 たつ子	幸 夫
松 程	鈴 木 清 夫	義 巳
小 原	佐 藤 や す 秀	光 宏
沼 向	菅 井 元 つ	伸 夫
松 原	松 田 正 己	春 み
松 程	鈴 木 次 雄	ゆり 人
ふれあい	伊 藤 利 助	本 政
川 通 平	志 藤 野 庄	治 庄

人口と世帯数

●平成22年11月30日現在	
人 口	8,063人(−20)
男	3,997人(−11)
女	4,066人(−9)
世帯数	2,517世帯(−4)
	()内 前月比
-----11月中の異動-----	
出生	5人
死亡	15人
転入	7人
転出	17人

第13回ひめさゆり俳句大会

町内小中学生による標記大会が今年も開催され、応募総数 1189 句の審査結果このほどが発表されました。

この大会は「山形詩人」、「小熊座」同人(会員)で、齋藤茂吉文化賞をはじめとした数々の賞を受賞している阿部宗一郎さん(常盤)が「子どもたちに、活字に親しむ機会を提供することで、日本語の美しい響きを理解してもらいたい」と平成10年に始めたものです。一昨年以降は、町教育委員会が事業を引き継ぎ、審査員は日本現代俳句協会の佐竹伸一さん(常盤)と山形県俳句協会の岩崎孝彦さん(高田)が務めています。

今回金賞・銀賞に選ばれたのは次の句。このほかの入選作品については、今後お知らせ板で紹介していく予定です。

▼金賞(佐竹伸一氏選)

てき花して白いじゅうたんできあがる
(西五百川小3年 阿部将史)

評 摘花のお手伝いをした時の句でしょう。摘み取られた花でいっぱいになった地面を「白いじゅうたん」と表現したところが見事です。また、長時間一生懸命に摘果の作業をしていたこともわかります。情景ばかりでなく、作者の心の内まで見えてくる良い俳句です。

▼金賞(岩崎孝彦氏選)

汗にじむ背中にできたランドセル
(大谷小学校6年 渡辺晃人)

評 本当に暑かった今年の夏。思い出すだけでも汗が出てくるようです。この句は、そんな真夏の素直な実感からくる写生句。とらえ方が面白いですね。

▼銀賞(佐竹伸一氏選)

まつりでもおかげらてんぐ大きらい
(大谷小2年 菊地 葵衣)

つう学ろあつくてまるでフライパン
(大谷小2年 川村さつき)

夕立に空がぴりぴり怒ってる
(宮宿小6年 斎藤さくら)

▼銀賞(岩崎孝彦氏選)

風鈴が私のねむりさそってる
(宮宿小6年 岡崎 鈴花)

田植えて足にべとべとどろパック
(西五百川小4年 佐竹 里緒)

おばあちゃんせみのブローチつけていた
(宮宿小5年 小原あすか)

みなさんからのおたよりでつくるコーナーです。

町に対する意見や要望、質問、提案などお待ちしております。
なお、無記名での投書に対しては、事実関係の確認が難しく、回答できない場合もありますので、ご了承ください。

■あて先／〒990-1442 朝日町大字宮宿1115番地
朝日町役場 政策推進課 地域情報係
(電話：67-2112 ファックス：67-2117)
■メール／inform@town.asahi.yamagata.jp

町民の

声

ごみ収集回数を増やして！ 小動物の死骸の処理体制はどうなってるの？

問

ごみの収集について、山形市周辺と比べて分別の仕方が大きく異なり驚いています。また、収集回数も少ないように思います。もう少し回数を増やしていただけると楽になるのではないのでしょうか(特に不燃物)。

また、時折小動物の死骸が散乱し、カラスのエサと化しています。こうした状況についてどうお考えでしょうか。

【無記名】

答

ごみの分別収集につきましては、日頃よりご協力を賜り感謝申し上げます。ご指摘の「分別方法の違い」については、リサイクル施設等により、自治体間に違いが生じています。当町の分別収集については、寒河江西村山地区1市3町で運営する「寒河江地区クリーンセンター」



ごみの収集作業にあたる委託業者の作業員

の枠組みで実施していますが、収集回数については、同センターの処理能力に応じて体制が構築されています。経費の面も含め、当町のみ収集回数を増やすことは困難であることをご理解願います。

最後に、小動物の死骸についてですが、道路上にある場合は、町のごみ収集運搬業者に回収を委託して対応しています。時には業者が連絡を受けてから現場に駆け付けるまで時間がかかる場合もありますので、ご理解いただきまますようお願い申し上げます。

【税務町民課】

語りかける言葉

「時空を超えた対話が
明日への自信と勇氣に」

町長歳時記
(61)

「絵は本物を真似ることはできる。もしかしたら本物以上に上手く描くことができるかも知れないが、名前だけは真似ることはできない。と、あなたのおじいさんに教えられてねえ。」これは、十二月三日、今年度の文部科学大臣からの地域文化功労者表彰の伝達のため、町内常盤在住の阿部宗一郎氏のお宅へ伺った時の氏の言葉です。氏のお宅へお伺いする時は、いつも、仕事の大事、物の見方・考え方の大事、そして人生の大事を熱心に教えていただきます。そんな時、たまたま祖父の思い出に話が進んだ時など、氏の言葉を通して祖父が私に語りかけているような心持ちになる時があります。

人の思いは何によって伝わるのでしょうか。過去の文人によって記された小説や書簡。懐かしい人々の手紙や日記など、それらのページをめくった瞬間、語り手の心が同じ時間を生きている人間の「言葉」として、読む者に語りかけて来るのです。その思いは確実に読み手自身へ引き継がれ、語りかける言葉として読み手もそれを受け止め、そして書き手に語りかける。そんな内なる交流が、時空を超えた対話となり、自分自身を成長させ、きっと明日への自信と勇氣につながって行くのです。

この年の瀬、一年間の思い出をひも解いた時、語り手の自分が読み手の自分に何か大切なことを語りかけていることに、きっと気付くかも知れません。新しい年のために。

朝日町長 鈴木浩孝

わたしの作品



水彩、50号（116.7cm×80.3cm）

第65回山形県総合美術展 洋画部門入選作品

「初冬に立つ大滝」

布施邦芳 さん（大町）

「数年前、宮城県にある『秋保の大滝』を訪れた際、身を切るような寒さの中舞い散るの雪の美しさと、滝の荒々しさに心を打たれ描いた作品です。

絵については昔から興味がありましたが、実際に描くようになったのは4年前。県美展への出品は今回が初めてで、50号という大きな作品を描いたのも初。入選を知った時はうれしさよりも、驚きの方が大きかったですね。

外出するときは常にカメラを持参し、気になる風景があれば写真に収めています。また、展示会にはなるべく足を運び、いい作品を自分の目で見て勉強しています。今後も研さんを重ね、楽しみながら作品を描いていきたいと思います」

観光協会だより

旅の窓口

by 町観光協会
観光振興推進員
亀井秀介



大事なのはお客様の「ココロ」を動かすこと ～観光協会ホームページ～

観光協会ホームページ「あさひ旅の窓口」を開設して8カ月、おかげ様で、たくさんの方々にご覧いただいています。

多い日にはアクセスが1000件以上。先日のりんごキャンペーンでも「ホームページを見てきたよ」といううれしいコメントもあり、ウェブ社会を実感します。

ただ心がけていることはお客様のココロを少しでも動かすこと。常に新しい情

報を提供する姿勢、季節を感じていただくブログや話題など、ウェブ上でもおもてなしのココロを大事にしています。

ちょうど今月からトップページも冬バージョンになりました。ぜひ、ご覧ください。また季節感あふれる話題もお知らせくださいね。

▼URL <http://asahimachi-kanko.jp/>
「あさひ旅の窓口」で検索

「競争がないと、生きていても楽しくないやろ」とは、先日ある新聞紙面で紹介されていた大手商社社長の言葉。結局、この競争こそが、仕事の原動力になっているのも事実です。

佐久間 淳

春夏秋冬 編集後記

競争・評価に
さらされる緊張感が
仕事の原動力

広報の仕事をする中で常々感じるのが、「自己顕示欲」の大切さ。つまり、「目立ちたい」「見てもらいたい」という欲求を持つことが大事だと思います。

「出る杭は打たれる」ということわざに代表されるように、日本では昔から何でも「控えめ」が美德とされてきました。しかし、現実の世の中は競争社会。これは自治体も例外ではなく、結局は市町村間の競争です。新聞や雑誌、テ